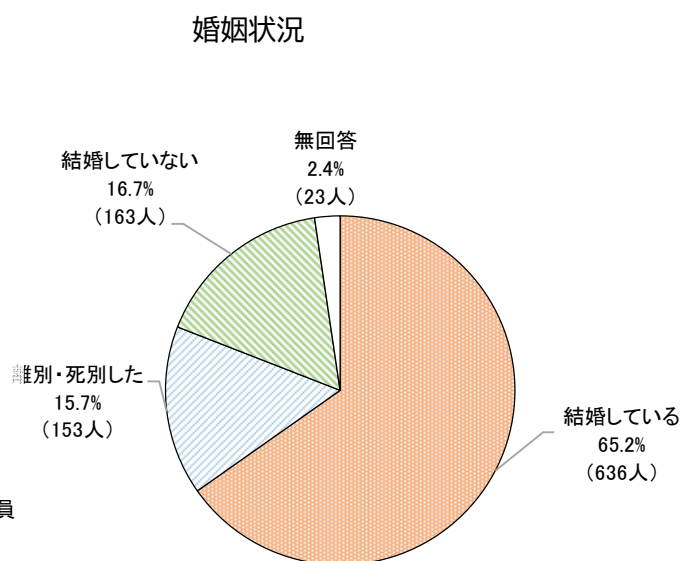
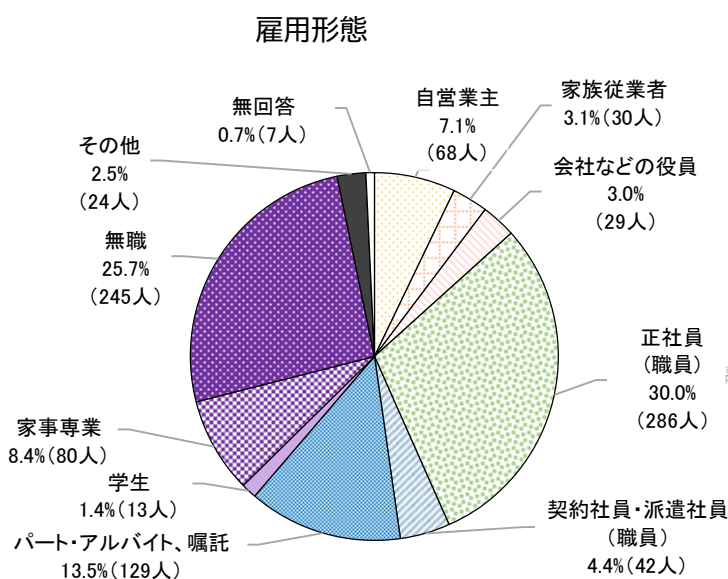
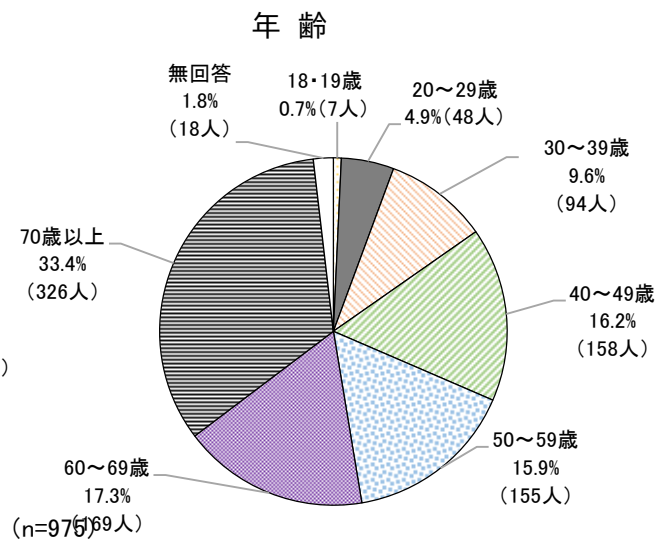
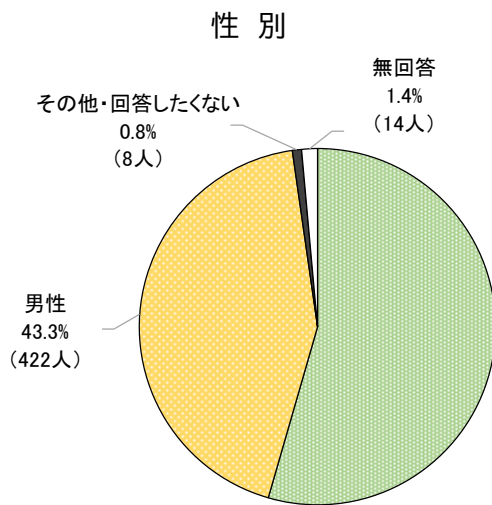

男女共同参画社会づくりのための市民意識調査
報告書(概要版)

令和8年1月

宮崎県 日向市

◆ 調査の概要 ◆

- ・ 調査の目的 第6次日向市男女共同参画プランが令和8年度に計画期間の満了を迎えることから、次期プランの策定に向けて、市民の意識やニーズ、現状の課題を把握することを目的として本調査を実施した。
- ・ 調査対象 日向市に居住する満18歳以上の市民2,000人(無作為抽出)
- ・ 調査方法 郵送配布・郵送回収
- ・ 調査時期 令和7年11月27日～令和7年12月24日
- ・ 回収状況 有効回収数:975人(有効回収率:48.8%)



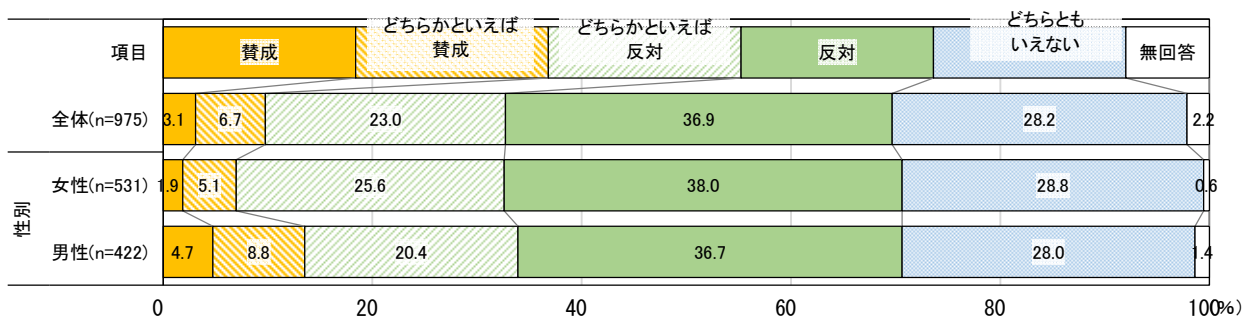
1. 男女平等意識について

問 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」といった性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、どう思いますか。

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方に反対する人が約 6 割

全体では、『反対』(「どちらかといえば反対」と「反対」の計:以下同じ)の割合が59.9%で、『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」計:以下同じ)の9.8%を大きく上回っています。

性別では、『反対』の割合は女性が63.6%、男性が57.1%で、女性が男性を6.5ポイント上回っています。

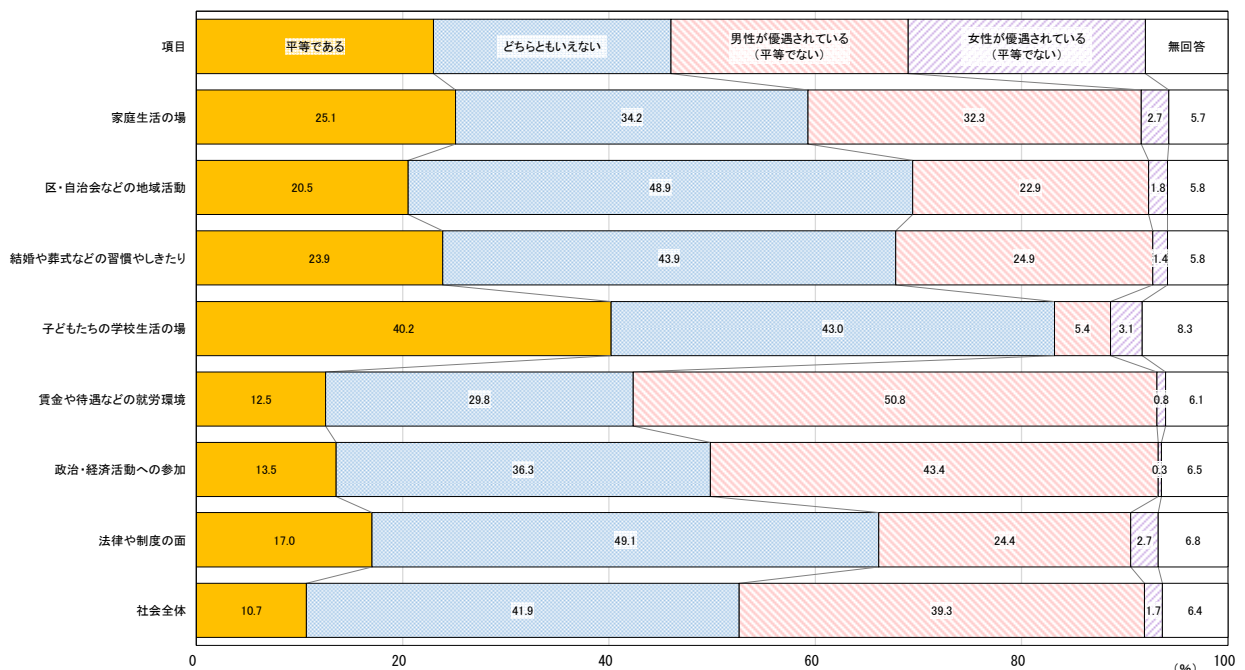


問 あなたは、次の各分野において、男女はどの程度平等になっていると思いますか。

各分野における男女の平等感は、「学校生活の場」以外は男性の優遇感が強い

「平等である」の割合が最も高いのは、「子どもたちの学校生活の場」(40.2%)となっています。

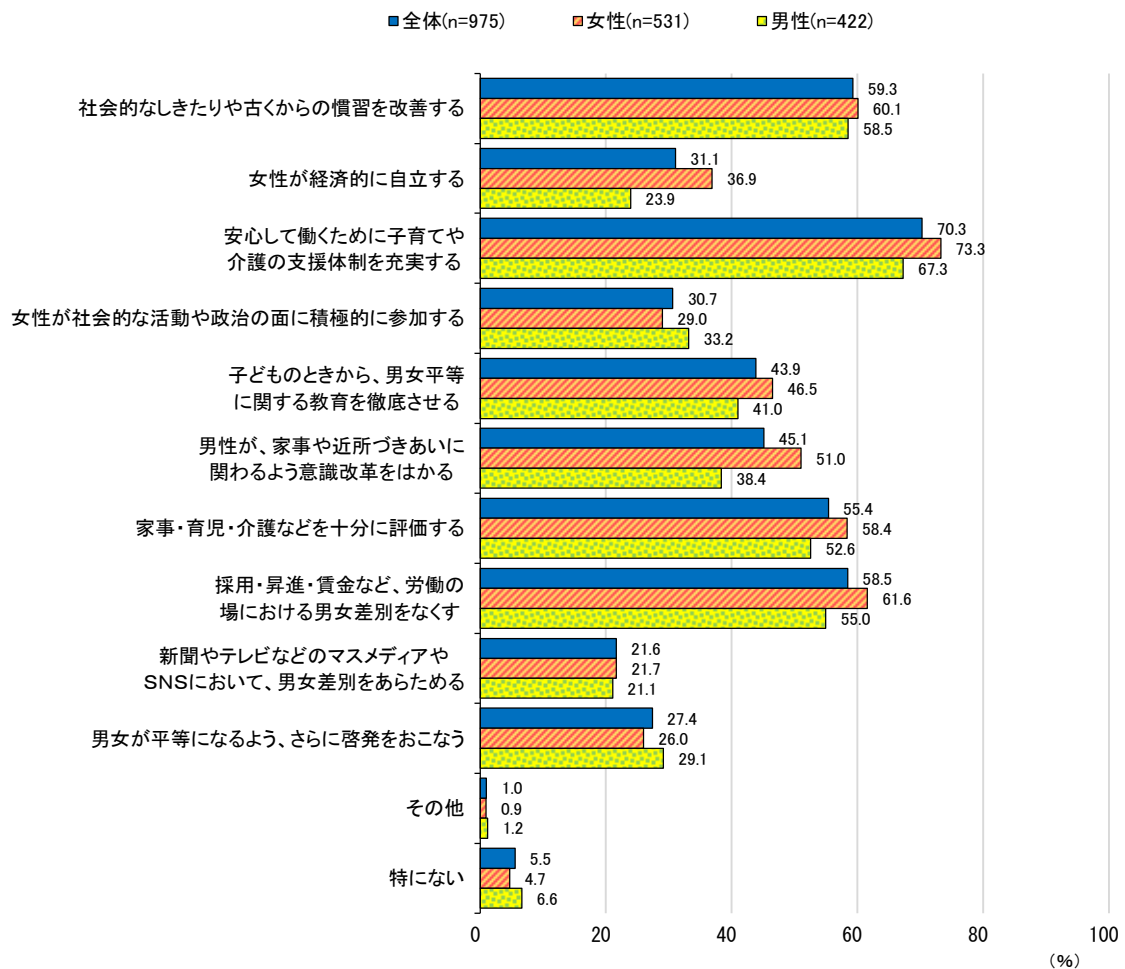
「男性が優遇されている(平等でない)」の割合が最も高いのは、「賃金や待遇などの就労環境」(50.8%)であり、次いで「政治・経済活動への参加」(43.4%)、「社会全体」(39.3%)となっています。



問 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、特に必要だと思うことを選んでください。

男女があらゆる分野でもっと平等になるためには「子育てや介護の支援体制の充実」が必要

全体では、上位の3項目は、「安心して働くために子育てや介護の支援体制を充実する」の割合(70.3%)が最も高く、次いで「社会的なしきたりや古くからの慣習を改善する」(59.3%)、「採用・昇進・賃金など、労働の場における男女差別をなくす」(58.5%)となっています。

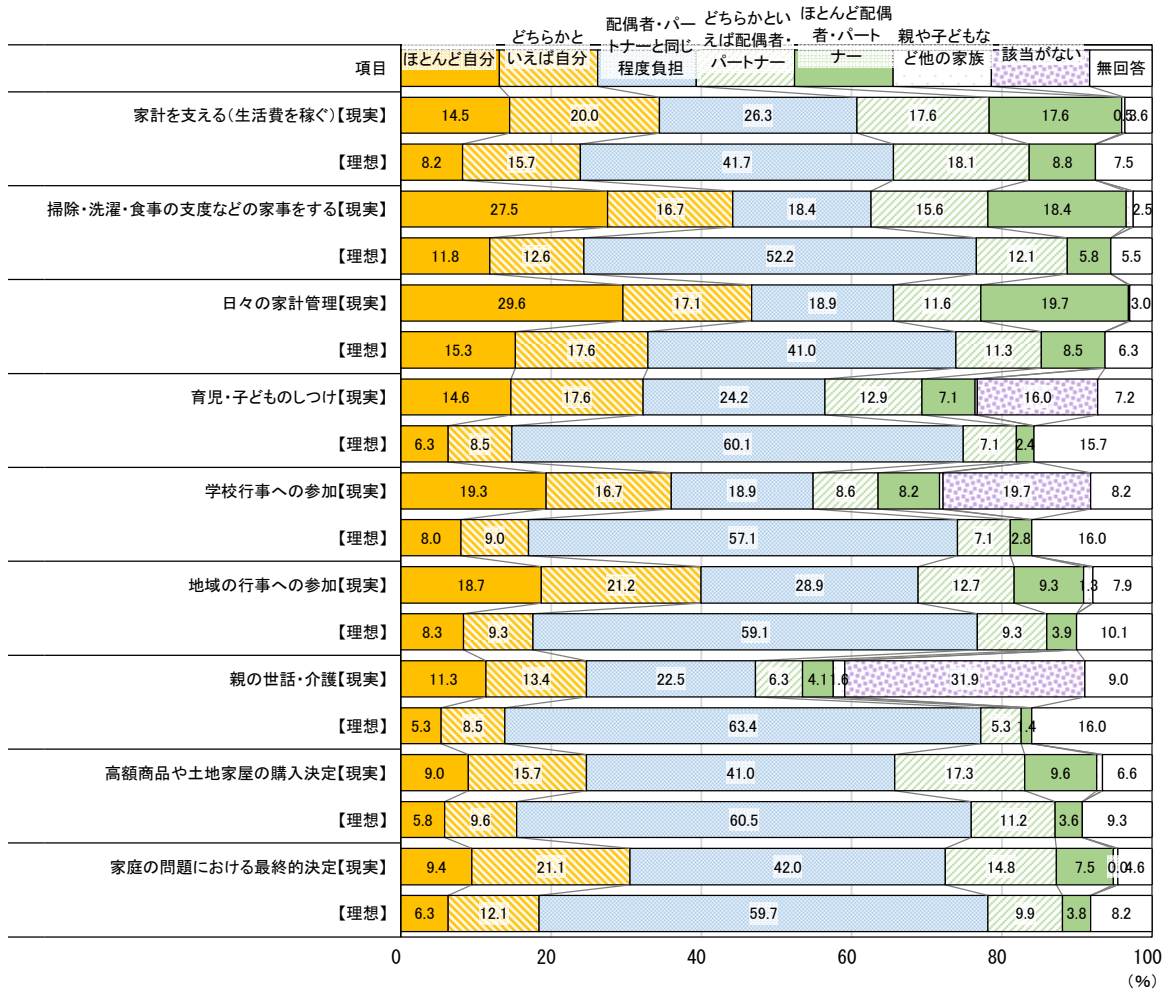


2. 家庭生活に関すること

問 あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。
現実と理想それぞれについてお答えください。

理想より大幅に下回る現実：家事・育児・介護で 30~40 ポイント超の差

「配偶者・パートナーと同じ程度負担」の割合についてみると、どの項目とも「現実」は「理想」を下回っています。その中で、「理想」と「現実」の差が大きい(差が30ポイント以上)のは、「親の世話・介護」(40.9ポイント差)、「学校行事への参加」(38.2ポイント差)、「育児・子どものしつけ」(35.9ポイント差)、「掃除・洗濯・食事の支度などの家事をする」(33.8ポイント差)、「地域の行事への参加」(30.2ポイント差)となっています。

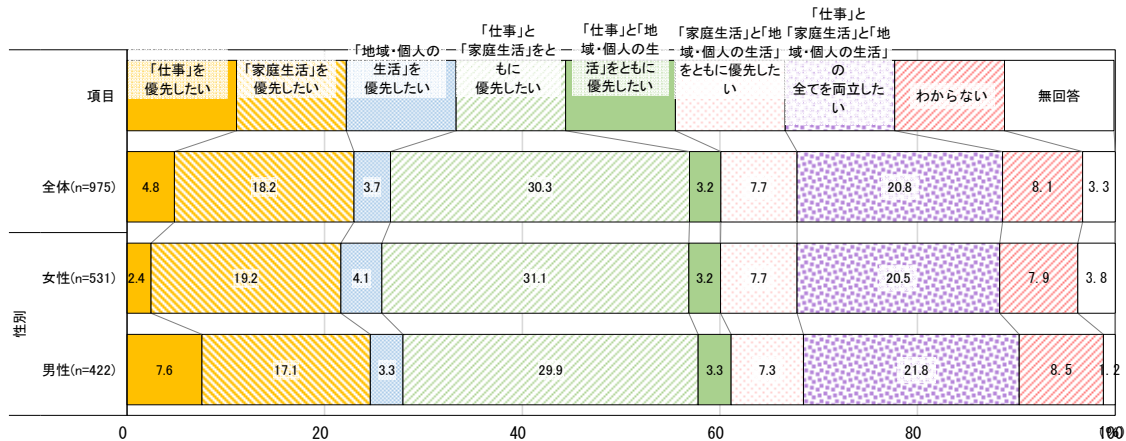


3. 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について

問 あなたは、「仕事」と「家庭生活（家事・育児・介護等）」または「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・娯楽等）」のどれを優先したいと思いますか。

男性の方が仕事優先の傾向が強い。約3割の人が「仕事と家庭の両立」を希望

全体では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合(30.3%)が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したい(20.8%)、「家庭生活」を優先したい(18.2%)となっています。

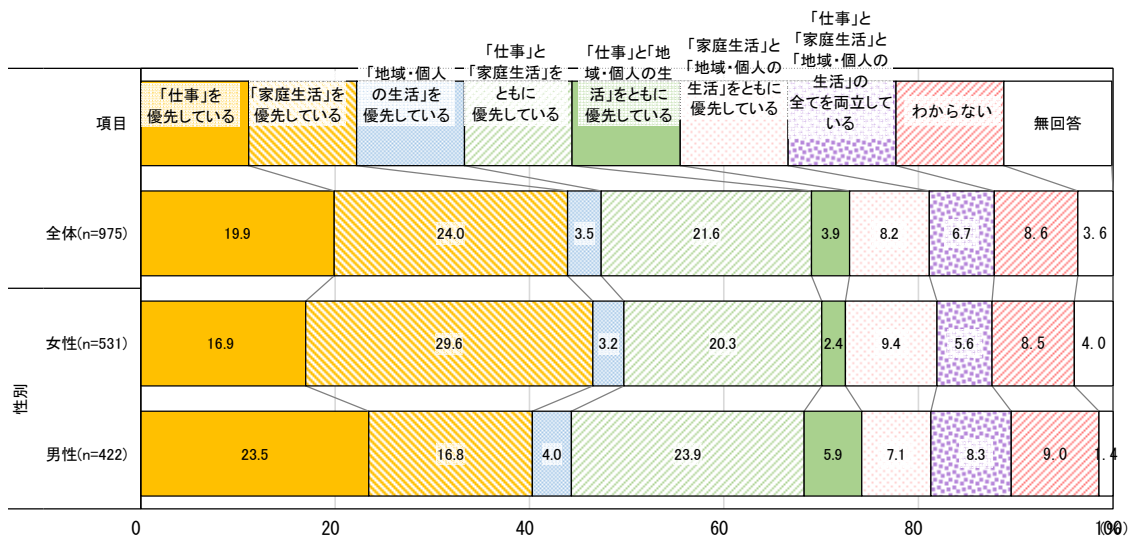


問 現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。

男性に仕事優先の傾向 全体では約3割が「仕事と家庭の両立」を選択

全体では、「家庭生活」を優先している」の割合(24.0%)が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(21.6%)、「仕事」を優先している(19.9%)となっています。

性別では、女性は全体とほぼ同じとなっています。男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(23.9%)と「仕事」を優先している(23.5%)の割合が高くなっています。



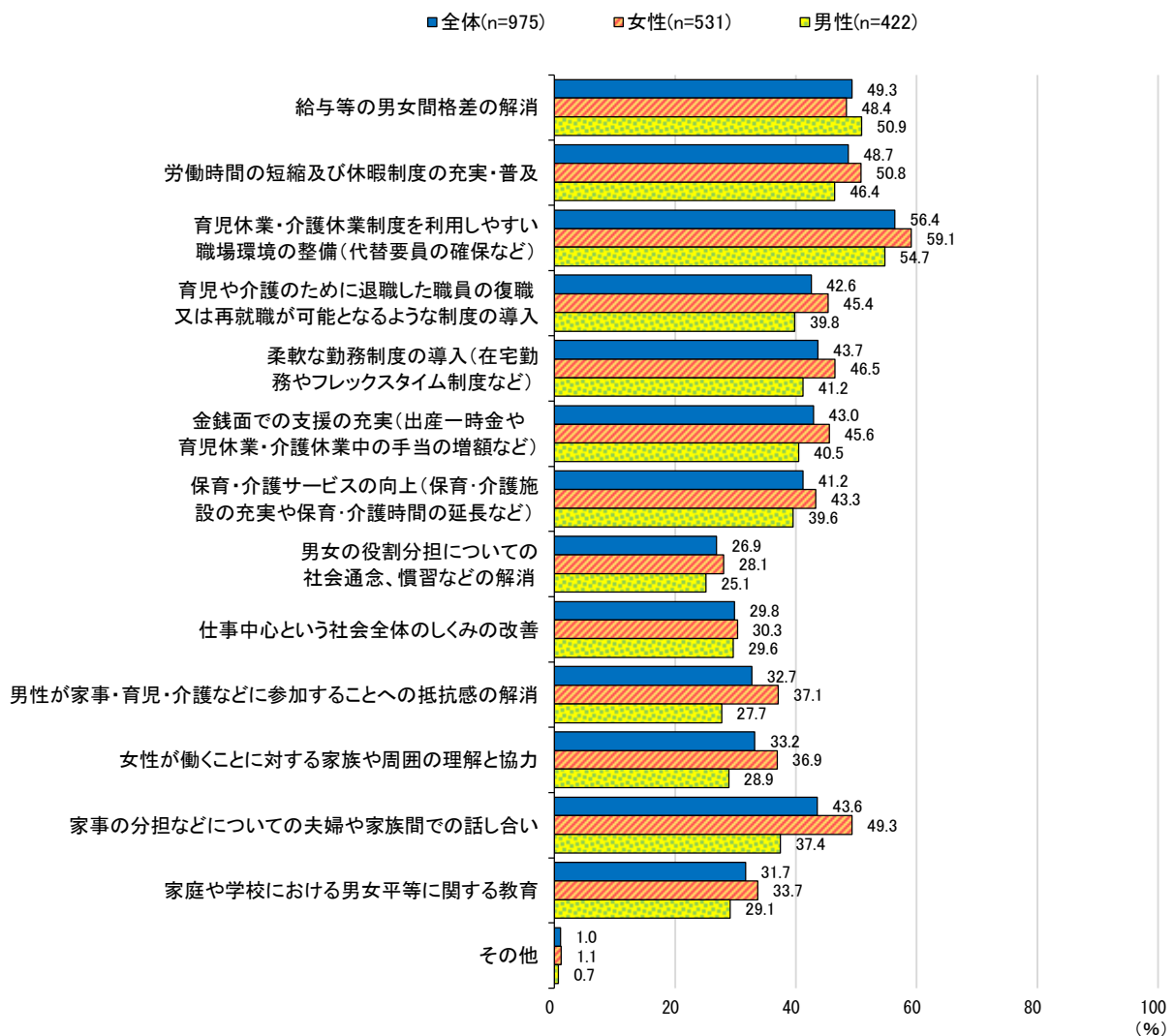
問 女性も男性も仕事と家庭の両立ができるようにするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

働きやすい環境整備への要望が最多:育児・介護休業環境 56.4%などが上位

全体では、上位の5項目は、

- ・「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備(代替要員の確保など)」(56.4%)
- ・「給与等の男女間格差の解消」(49.3%)
- ・「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(48.7%)
- ・「柔軟な勤務制度の導入(在宅勤務やフレックスタイム制度など)」(43.7%)
- ・「家事の分担などについての夫婦や家族間での話し合い」(43.6%)

となっています。



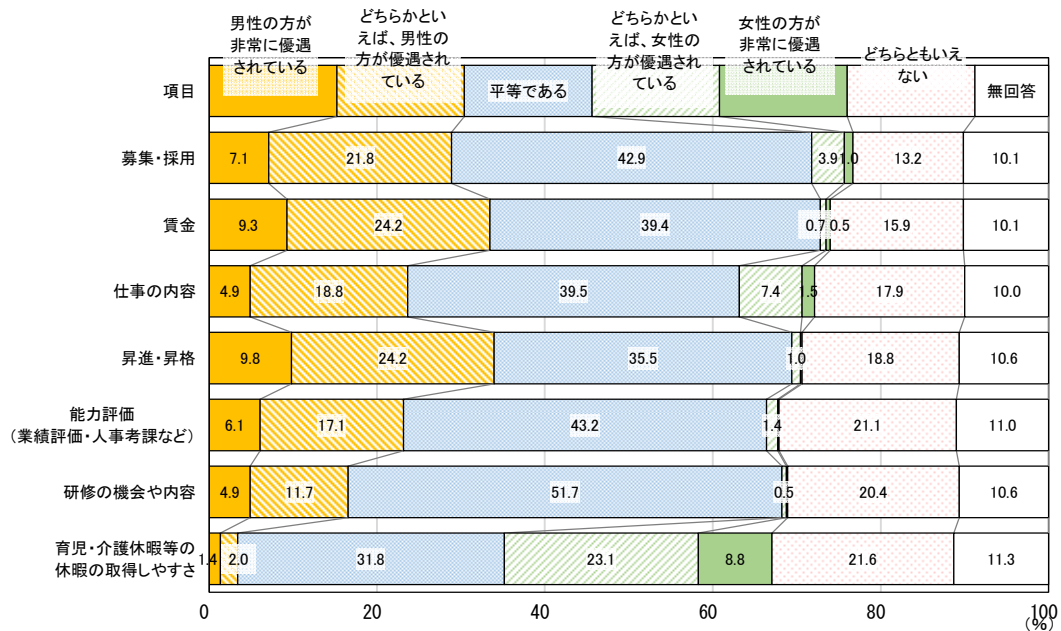
問 あなたの職場では、次の分野で、性別によって差があると思いますか。

職場において、「研修の機会や内容」はほぼ平等、「賃金」や「昇進・昇格」では男性優遇

「平等である」の割合が最も高い項目は、「研修の機会や内容」(51.7%)であり、次いで「能力評価(業績評価・人事考課など)」(43.2%)、「募集・採用」(42.9%)となっています。

『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の計:以下同じ)の割合が高い項目は、「昇進・昇格」(34.0%)であり、次いで「賃金」(33.5%)となっています。

『女性優遇』(「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計:以下同じ)の割合が高い項目は、「育児・介護休暇等の休暇の取得しやすさ」(31.9%)となっています。

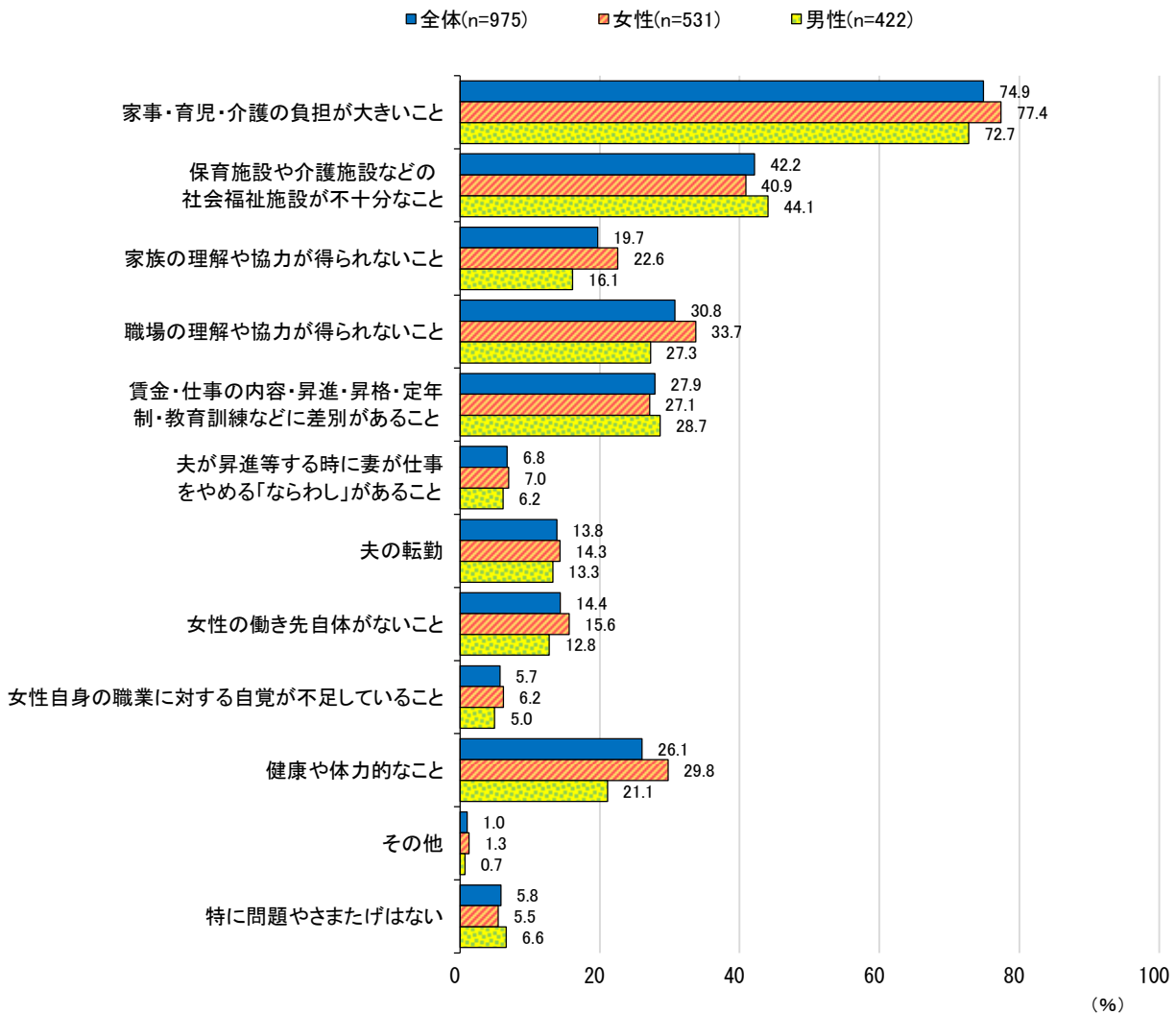


問 あなたは、女性が働き続ける上で、特に問題やさまたげになっていることは何だと思いますか。

女性が働き続けるうえでの問題は、約 8 割の人が「家事・育児・介護の負担が大きいこと」と回答

全体では、「家事・育児・介護の負担が大きいこと」の割合(74.9%)が最も高く、次いで「保育施設や介護施設などの社会福祉施設が不十分なこと」(42.2%)、「職場の理解や協力が得られないこと」(30.8%)となっています。

性別では、項目の順位、割合は男女とも全体とほぼ同じとなっています。このような中で、「健康や体力的なこと」では女性(29.8%)が男性(21.1%)を8.7ポイント上回っています。

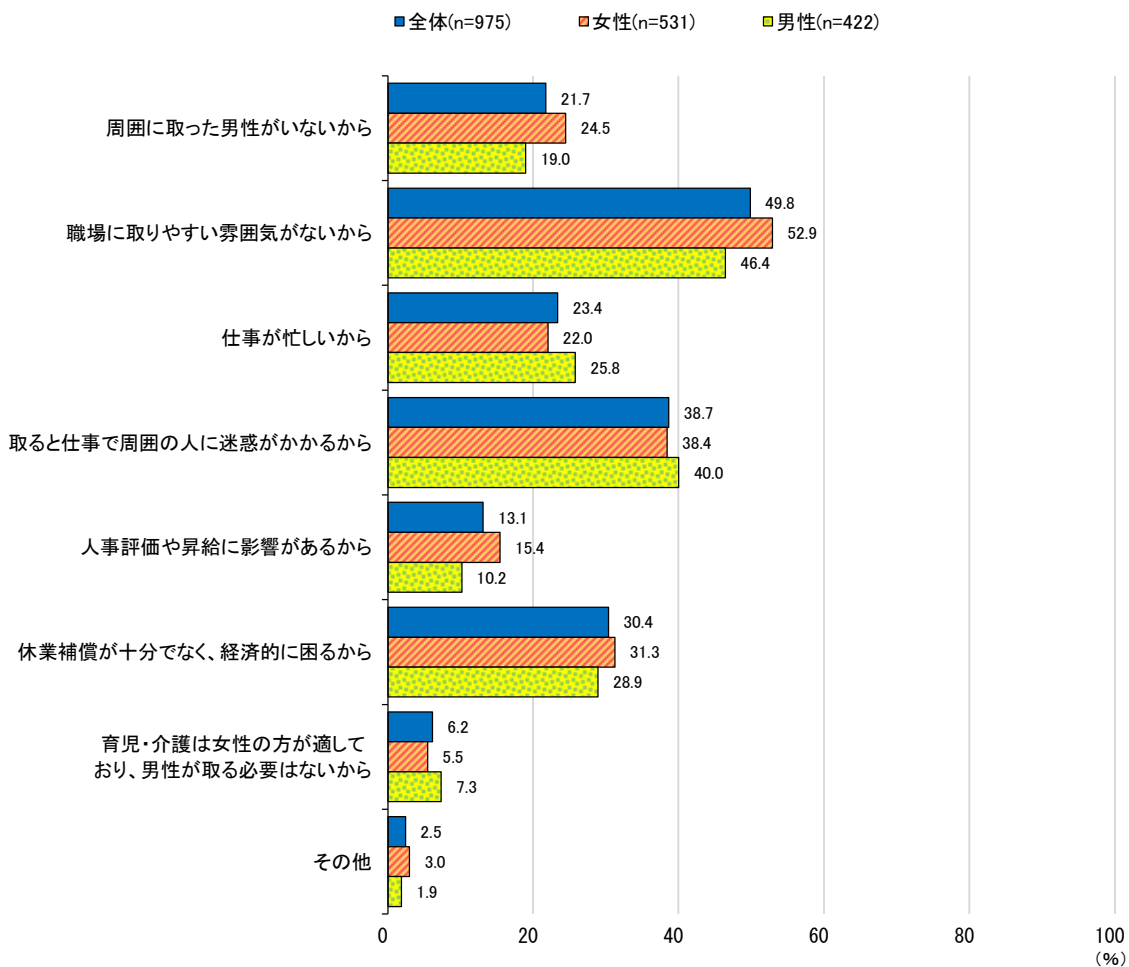


問 宮崎県の令和6年度の労働条件等実態調査によると、女性の育児休業取得率が98.2%であるのに対し、男性は55.0%と低い水準となっています。男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思いますか。

男性の育児休業取得率が低い理由は、半数以上の人「職場に取りやすい雰囲気がないから」と回答

全体では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」の割合(49.8%)が最も高く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」(38.7%)となっています。

性別では、項目の順位、割合は男女とも全体とほぼ同じとなっています。



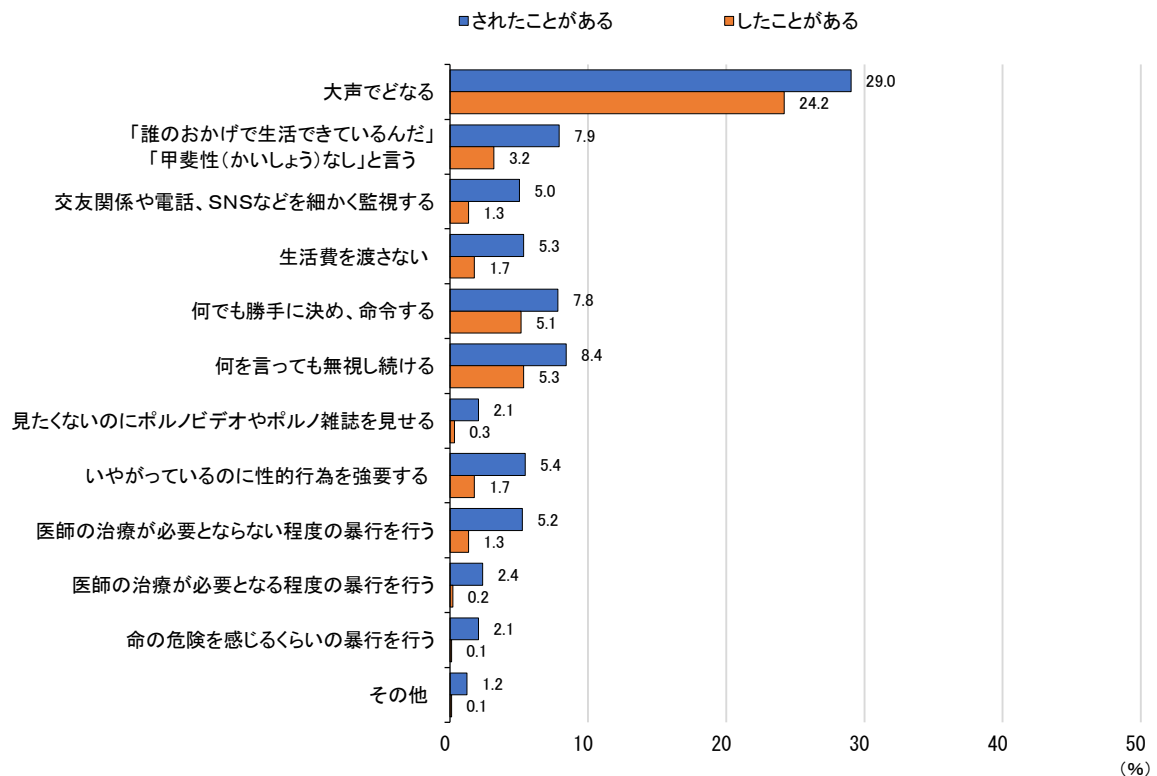
4. 人権への配慮について

問 あなたは、夫や妻又は恋人から次のようなことをされたこと又はしたことがありますか。

最も多いのは「大声でどなる」被害 29%・加害 24%

「されたことがある」では、「大声でどなる」の割合(29.0%)が最も高く、次いで「何を言っても無視し続ける」(8.4%)、「誰のおかげで生活できているんだ」「甲斐性(かいしょう)なし」と言う(7.9%)、「何でも勝手に決め、命令する」(7.8%)となっています。

「したことがある」では、「大声でどなる」の割合(24.2%)が最も高く、次いで「何を言っても無視し続ける」(5.3%)、「何でも勝手に決め、命令する」(5.1%)となっています。

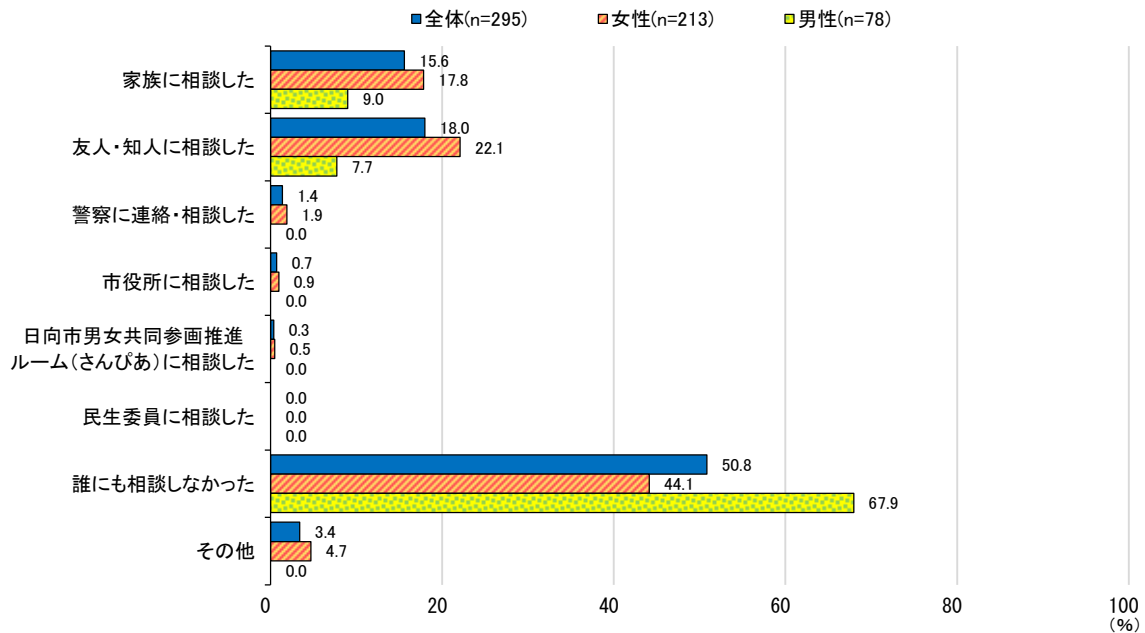


問 あなたは、前述であげたような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

半数以上が「誰にも相談しなかった」 公的機関への相談はごく少数

全体では、「誰にも相談しなかった」の割合が50.8%で最も高くなっています。また、相談した相手では、「友人・知人」の割合(18.0%)が最も高く、次いで「家族」(15.6%)となっています。このような中で、「警察」(1.4%)や「市役所」(0.7%)など公的機関の割合は低くなっています。

性別では、男女とも「誰にも相談しなかった」の割合(女性:44.1%、男性:67.9%)の割合が最も高くなっています。



だんじょきょうどうさんかくしやく
5. 男女共同参画施策について

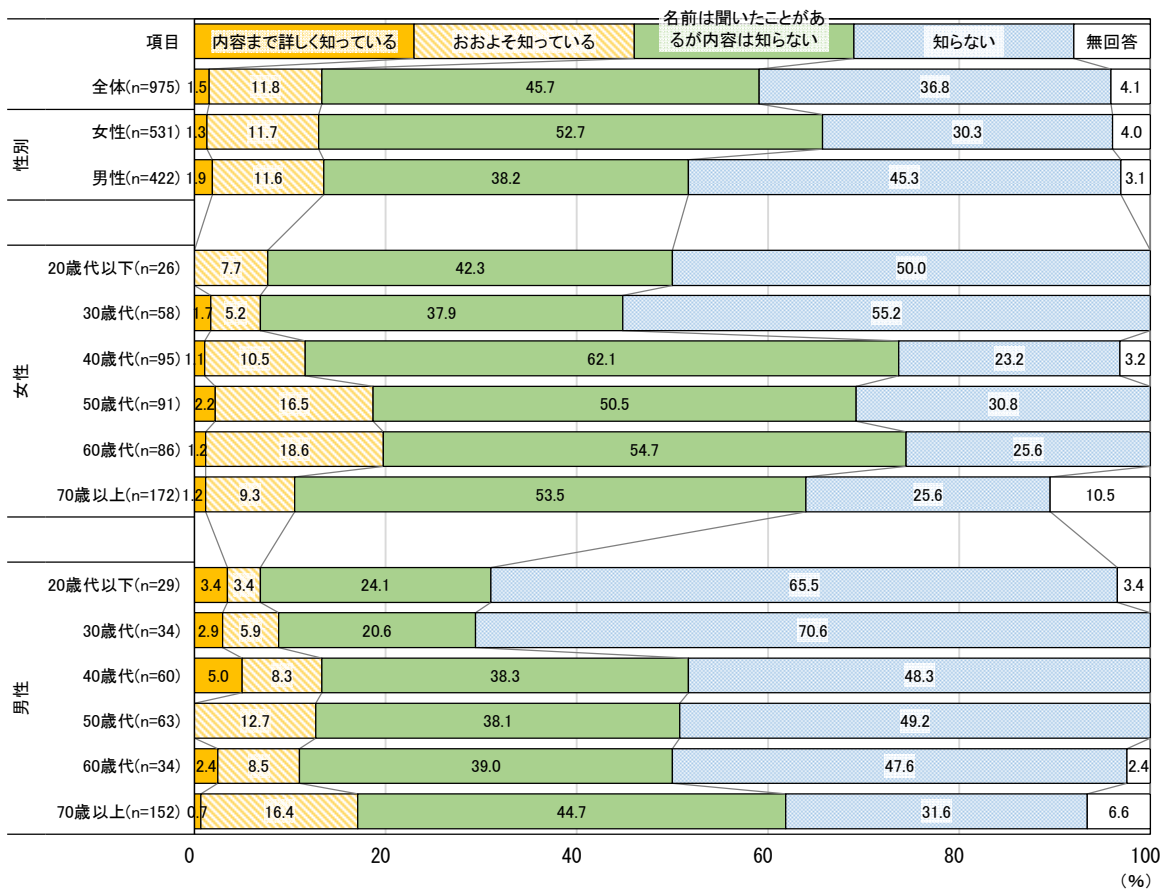
問 日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」について、あなたの認知度をお答えください。

認知度の低さが明らかに：内容未理解 45.7%、未認知 36.8%

全体では、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」の割合(45.7%)が約半数で最も高くなっています。なお、「知らない」は36.8%となっています。

性別では、「知らない」の割合(女性:30.3%、男性:45.3%)は男性が女性を15.0ポイント上回っています。

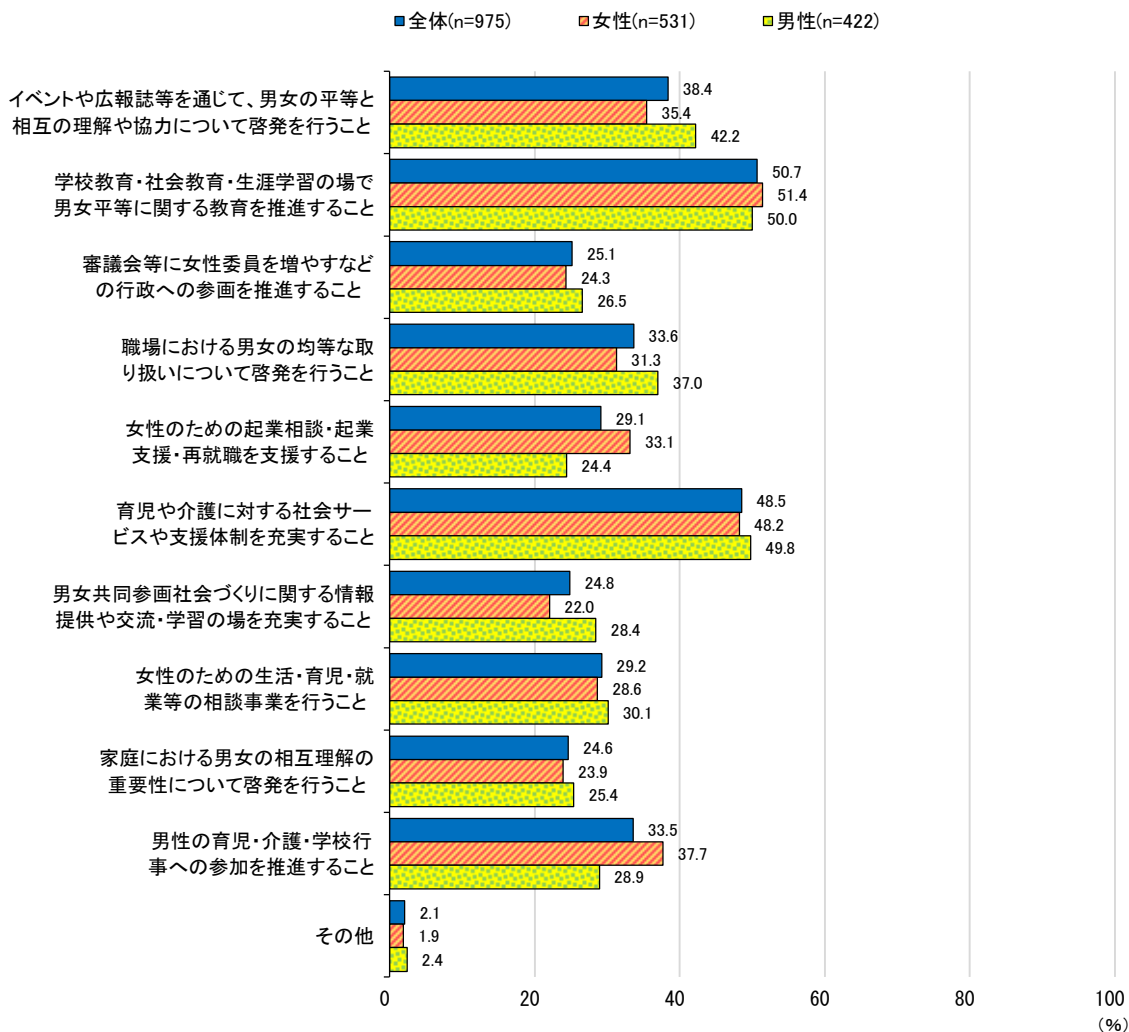
性・年代別では、男女とも年代が下がる「知らない」の割合が高くなっています。



問 男女共同参画社会を実現するためには、市としてどのようなことに取り組んだらよいと思いま
すか。次の中から選んで番号に○をつけてください。

男女平等推進に関する主要ニーズ:教育 50.7%、支援体制 48.5%、啓発 38.4%

全体では、上位の3項目は、「学校教育・社会教育・生涯学習の場で男女平等に関する教育を推進すること」の割合(50.7%)が最も高く、次いで「育児や介護に対する社会サービスや支援体制を充実すること」(48.5%)、「イベントや広報誌等を通じて、男女の平等と相互の理解や協力について啓発を行うこと」(38.4%)となっています。



男女共同参画社会づくりのための市民意識調査報告書(概要版)

令和8年1月

日向市総合政策部 地域コミュニティ課 人権・同和行政・男女共同参画推進室

〒883-8555 日向市本町 10 番 5 号